

## “タイトル未定”

※募集します。詳細は本誌最後にあります。

2024.05.13 Mon. Vol.01

### 探究を楽しんで

教育企画推進部長 奥田 大志

皆さんが将来必要とするのはどのような力なのでしょう。経済産業省によると、2050年に仕事に必要な能力Top3は「問題発見力」「的確な予測」

「革新性」だそうです。技術革新がすすみ、変化が目まぐるしく、先行きの見通せない世の中では、これまで大切とされてきた「注意深さ」「責任感」「信頼感」以上にこれらの能力が必要だということですね。

一昨年度にSSHに指定されたタイミングで、本校は「探究活動」でこれらの能力が身につくよう教育課程を組み合わせ、人文・数理探究類型を中心にすべての生徒が「探究」に取り組めるようなプログラムを構成しました。目指すのは「変化を恐れずに新たなビジョンで課題を発見・解決し、社会を牽引していく人材の育成」です。この通信を通して、毎年改良を重ねる探究プログラムの様子を伝えたいと考えています。

長田高校は行事や学校生活を生徒主体で行っている学校です。文化祭や体育祭などでは、皆さんは新しいことを実現しようと、その問題点を考え、クリアする方法を模索し、一緒に行う仲間を集めて取り組んでいます。これって実はとても探究的なことです。そう考えると校風的に「探究」がピッタリはまる学校だと思いませんか？課題研究はもちろん、普段の学習や生活にも「探究的思考」をどんどん取り入れ、高校生活を楽しんでほしいと思います。

## 探究授業の記録・報告

4月11日(木) 6~7時間目

1年類型「探究入門」

「オリエンテーション・

科学者という人生」

はじめに年間計画を示しながら、「探究とは?」「なぜ探究するのか?」を、世の中の動きを踏まえながら身につけるべき力とともに確認しました。後半では、入校時課題を踏まえながらLeonardo Da Vinciの業績について、自分が感じたことを振りかえり、その業績のうち特に顕著なものを1つ挙げ、その社会的意義についてプレゼンテーションを作って発表することを行いました。



### <生徒の振り返り・感想>

・限られた時間の中で、発表するテーマを見つけ、それをどんどん膨らませて組み立てていく難しさを実感した。話の順序を入れ替えた方が、聞き手にとって理解しやすかったのではないかと反省した。一方で、班のメンバーの全員が積極的に発案し、それぞれ着眼点が違う意見でもうまく組み込むことができたところは良かったと思った。ほかの班の発表では、様々な角度でダヴィンチの業績や影響について話し、それぞれの味が出ていた。今回の取り組みは、普段とは違う頭の使い方と考え、刺激も受けることができ、とても楽しかった。また、これから外部の先生方の講義を大切に、コンテストなどにも挑戦してみたいと思った。

・家に帰ってから、意義という言葉の意味を調べてみた。

意義：言葉、事柄、行為などが現実を持つ価値。

影響：一方の作用や働きが、結果として他方に変化や反応を起こさせること。

業績：事業や研究などのうえでの成果。

価値は、そこに価値を認めてくれる人がいないと存在できない。例えば、お金でも、その紙切れに価値があると認め、信用してくれる人がいるからこそ、お金には価値があるといえる。

同じようにも何か、例えば、絵を描いたりアイデアを生み出したりしても、そこに価値があると認めてくれる人がいなければ、それは業績にはなりえないし、意義のないことだと思う。

だから私は、何かをするときは、すること自体も大切だけれど、人に伝えるとか、認めてもらうということも大切にしたい。

#### 4月25日(木) 6~7時間目

##### 1年一般・類型「理数探究基礎(探究入門)」

##### 特別講義「探究が開く世界への扉」

鳥取大学 准教授 進藤明彦先生

類型・一般の合同で、3年間の探究に関する取り組みのスタートとして特別講義を実施しました。講師の進藤先生は本校のSSH運営指導委員で、本校の探究活動について助言をしてくださっています。

講義ではまず、社会の大きな動きを踏まえた探究活動の重要性を示し、そのうえで身の回りの課題や疑問を見つけるための視点と手法を、実際に写真を見たり協議したりすることで考えていきました。

「研究倫理」についても講義の中で大きなテーマになりました。高校生が探究を行う際に、どうすれば倫理的に問題がなく、充実した活動を行うことができるのかを、実際の研究倫理教材を示しながら解説してくださいました。



#### 4月12日(金)・19日(金) 6時間目

##### 2年類型「探究A」

3月末の「Next Generation's Challenge」を踏まえて、各国の課題解決をSDGsの観点から論理的に構築する、というプレゼンテーションの導入を行いました。

課題解決の方法を論理的に考えるためには、まず自分について、世界について正しく理解することが重要である、ということグループワークを通して確認していきました。



#### 4月16日(火)・23日(火) 5~6時間目

##### 2年一般「総合的な探究の時間」

事前に考えた探究テーマや方向性に応じて、グループに分かれてテーマ設定のための活動を行いました。まず、年間の計画を把握したうえで、テーマに関する疑問を「開かれた問い」にすることからテーマ設定を進めていきました。

23日には文献調査の方法を学びました。先行研究の調べ方に苦戦していましたが、各自のテーマや社会課題に対する解像度(考える切り口や、キーワードの選び方)を上げることが重要であることに気づきました。



### <活動ログより抜粋>

- ・言葉にするのが難しいと感じた。あと、日常では疑問に感じてることはたくさんあるのにいざ題材にすると大変だなと感じた。
- ・各テーマの共通点を見つけるのが難しく、そのため疑問を出すのに手間取ってしまった。どうすればいろんな視点を持てるのか知りたい。
- ・先行研究が自分たちの調べたい内容に当てはまりすぎていたので、新しいオリジナリティのあるテーマを考えるのに苦戦してます。
- ・選んだ、開かれた問いの3つとも調べるだけで解決しそうなものばかりです。なので、複数の問いを組み合わせでテーマを作ろうと思います。
- ・今考えている問いをやりたい気持ちが強いのですが、拘りすぎなのかもしれないと思います。

4月24日(水) 5~6時間目

### 2年類型「探究B」

年間計画を確認したうえで、5月1日に予定されている「構想発表会」に向けた準備とヒアリングを行いました。



### <活動ログより抜粋>

- ・探究の大まかなテーマは決まっているものの、具体的にそれで何をするのか、ということがなかなか決まらず行き詰っていたが、自分たちがその探究で何をを目指すのか、という視点を教えてもらったことで、今引っかかっているところが整理されたような気がした。また、何よりも、僕自身の探究テーマに対する理解がまだまだ浅いと実感したので、構想を固めるまでに一刻も早くわかる場所とわからない場所を自分の中で整理しておきたい。

- ・班で話している中で、新しいキーワードが出た時や、「こういうことじゃない?」といった仮説が出たときは、些細なことでもメモを取り、調べるようにした。誰が何を調べるのかの分担を、率先して効率的に行うことができた。

## その他の活動報告

### SSH 台湾研修 事前指導

3月22日(金) 事前指導①

概要説明・ブレインストーミング

4月12日(金) 事前指導②

先行研究の分析方法(実際の論文を用いて)

※「選択探究」との合同実施

3月にメンバーが決定し、終業式の日から初回の事前指導を行いました。ここでは研修の概要を説明したうえで、アイスブレイキングに始まり「防災と〇〇」というテーマでどのような切り口から社会課題を分析できるか、マインドマップの手法でアイデアを広げていきました。

最後はグループごとに出た考えを発表し、昨年度の台湾研修に参加した卒業生から助言を受けました。



4月12日には3年生一般クラス「選択探究」との合同で、「先行研究の分析の方法」をテーマに事前研修を行いました。「台湾と日本を比較した防災課題研究を、減災復興学の視点で深めることにより、高等学校の防災教育がさらに充実する」というテーマの研究ノート(査読のない、短めの論文)を読んでみて、研究の流れを理解して要素を拾い上げるにはどうすればよいかを考えまし

た。このテーマの論文を読むことにより、台湾研修が目指すものについても理解を深めることができました。

※使用した論文は、長田高校が連携協定を結んでいる兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科の Web サイトでも閲覧することができます。

URL : <https://drg-u-hyogo.jp/publication/rdrg>

## 編集後記

教育企画推進部の「探究」「国際」「SSH」といった様々な要素と、生徒の皆さんの活動を広く知ってもらうためにこのような通信を発行することになりました。今後も、皆さんの取り組んだ探究成果や、様々な場面での活躍を取り上げていきたいと思っています。また、それらの後押しを教員一同、全力でしていきたいと思っています。

次号以降にもご期待ください！！

## タイトル募集！

長田高校の探究や国際交流活動を広報するのにふさわしいタイトルを募集します。以下の QR コードから、あなたのアイデアを投稿してください。締め切りは5月22日（木）とします。

<募集用フォーム QR コード>

